

● 連携の背景

首都高速道路は、開通から40年以上経過した構造物が約3割を占め、道路の高齢化が進行しています。安全・安心・快適を維持向上させるため、構造上、維持管理上の問題や損傷状況等を早期、効率的に把握できるMMSによる3次元点群データを活用した **i-DREAMs**[®] (intelligence-Dynamic Revolution for Asset Management systems) の運用を進めています。

一方、DMPは、交通事故軽減他に向け普及・加速の見込まれる自動運転支援システム用高精度3次元地図基盤データの国内高速道路全線(2018年度上下線約3万km)の製品化を進めています。その際に道路更新、新設高速道路開通の情報を早期に地図基盤データに反映させる仕組みの構築も進めており、首都高速道路株式会社の持つ道路更新情報等の早期入手により、地図基盤データの更新周期の短縮化を実現させることを目指していきます。

両社は、快適な道路環境の実現を目指すことで連携に至りました。

また、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け大会運営を支える交通ネットワークの安全・安心・快適の更なる向上を図っていきます。

● **i-DREAMs**[®] (スマートインフラマネジメントシステム)

